

日本原子力学会 核燃料部会
平成 26 年度第三回運営小委員会議事録

日時 : 平成 26 年 11 月 27 日(木) 13:30~17:00

場所 : 日本原子力学会 事務局 会議室

出席者 : (委員以下は 50 音順)

湊部会長、平井副部会長、池田委員、岩元委員、宇埜委員、
逢坂委員(JAEA)、尾形委員、小野委員、草ヶ谷委員、小崎委員、
永瀬委員(代:天谷氏)、野田委員、巻上委員、藤塚(記)(14名)

議事

1. 前回運営小委員会議事録確認

藤塚庶務幹事から、前回(第二回、7月10日)運営小委員会議事録(資料1)が提示された。コメント反映済みであり、説明は省略した。

2. 軽水炉・高速炉におけるトリウム燃料の利用 WG 中間報告

WG 幹事の JAEA 田中康介氏(福島燃料材料試験部)から、資料2により昨年度から活動を再開した WG(山中主査)の中間報告が行われた。IAEA レポートや NRC レポートのレビューを行っており、今後第2回トリウム燃料国際セミナーの開催等を行い、平成27年度末までに WG 活動成果をまとめることとしている。

3. 溶融塩技術の原子力への展開研究専門委員会活動内容報告

研究専門委員会幹事の東大木下氏から、資料3により核燃料部会提案で昨年設立された研究専門委員会(山脇主査)の中間報告が行われた。溶融塩炉に関する海外動向や関連する技術開発の近況調査などを行っており、来年春の年会では研究委員会の総合講演を行うこととしている。

4. ポジションステートメントに対する核燃料部会の対応

藤塚庶務幹事から、学会各部会が作成している原子力に関する重要事項についての見解・提言・解説等であるポジションステートメント(PS)について核燃料部会でも活動を行う提案を行った。PS 作成 WG の核燃料部会委員である木下氏から WG での最近の検討状況が説明され、それらを踏まえて新年度から PS 作成 WG 委員を木下氏から運営小委委員の尾形委員に変更し、尾形委員にて平井副部会長と協議し、検討の方向性や題材についての課題を今後提案いただくこととした。

5. 平成 26 年度核燃料部会運営小委員会名簿、27 年度業務分担
藤塚庶務幹事から、資料 5-1 により最新の委員名簿を確認した。また、資料 5-2 により、27 年度の業務分担案を確認し、次回運営小委員会にて安部田副部会長の後任となる新副部会長を選出することとした。
6. WRFPM 会議概要
WRFPM 実行委員会を代表して草ヶ谷委員から、資料 6 により WRFPM2014(軽水炉燃料国際会議)の運営面の説明があった。実行委員会等のご努力により、余剰金から 130 万円余りを核燃料部会に寄付されたことが報告され、9 年後の次回日本開催での WRFPM に充てたいとの希望が出され、承認した。
7. WRFPM 開催報告
WRFPM プログラム委員であった尾形委員から、核燃料部会報に寄稿予定の資料 7 により、WRFPM の技術面の報告があった。口頭・ポスター発表数などを再確認したうえで最終版とすることとした。
8. 平成 26 年度収支実績と平成 27 年度予算
藤塚庶務幹事から、資料 8-1 により 26 年度収支実績見通しと 27 年度予算案を報告した。WRFPM 寄付金は今後繰越金の備考欄で WRFPM 用として記載し、引継ぎすることとしている。
また、資料 8-2 により、26 年度に支出予定 (ホームページの修正やアブストラクトの整理作業等の予定)の福井大学で行われるアジアジルコニウム会議の核燃料部会主催申請書を確認し、学会事務局に申請することを承認した。
9. ANFC 開催報告
逢坂委員から、資料 9 により WRFPM に引き続き行われた ANFC2014(第 2 回アジア核燃料国際会議)の報告があった。27 年度に学会英文論文誌の特集号の発行を計画している。
10. 平成 26 年度夏期セミナー開催報告
夏期セミナー幹事の永瀬委員の代理・天谷氏から、資料 10 により 26 年度の夏期セミナー開催結果報告があった。前回同様、学生の参加が少なかったが、発電所での燃料取扱いに関する講演などセミナー内容は好評な意見が多かった。

11. 平成 27 年度夏期セミナーの準備状況

27 年度夏期セミナー幹事の草ヶ谷委員から、資料 11 により来年度の夏期セミナーの準備状況について説明があった。来年度は、3 部会(核燃料、材料、水化学)合同開催で材料部会が担当幹事であり、開催日を 7 月 8～10 日、開催場所を福井県あわら温泉とすることを承認した。

12. 核燃料部会賞の状況

逢坂国内企画幹事から、資料 12 により今年度核燃料部会賞の進捗状況について報告があった。応募数は 1 件であり、選考委員として新たに東大・寺井委員、JAEA 高野氏の選任を承認し、次回の運営小委員会にて受賞者を決定することとした。

13. 部会報の状況について

岩元広報(部会報)幹事から、資料 13 により核燃料部会報(N o. 50-1)の進捗状況の説明があった。最終入稿日を 11 月末とし、26 年 12 月頃の発行を予定している。また、核燃料部会報(N o. 50-2)は 27 年 5～6 月頃の発行を予定している。

14. 核燃料部会 HP 改定案

藤塚庶務幹事から、資料 14 により核燃料部会 HP 改定案を説明した。資料の保存と検索性の向上等の基本的な方向性については承認されたが、目次や部会運営者限定欄に保管する資料について委員からのコメント・要望を 12 月 5 日までに庶務幹事に連絡することとした。

15. 安全対策高度化技術検討特別専門委員会-「設計による安全性向上作業部会」の状況

平井副部長、巻上委員から、資料 15 により日本原子力学会安全対策高度化技術検討特別専門委員会(関村主査)に新たに設けられた「設計による安全性向上作業部会」(阿部主査、巻上委員他)で、26 年度末を目途に核燃料に関する諸課題に対する対応のロードマップ等を検討することとなった、との報告があった。

16. その他 第四回運営小委員会を平成 27 年 2 月 24 日(火)13:30～学会事務局とした。

以上